



Spider IV



アドバンスド・ガイド

Spider IV 75, 120, 150 および HD150の特徴と機能を詳しく紹介

電子楽器限定版

ご注意:

Line 6, Spider, POD および X3 はLine 6, Inc の商標です。その他全ての製品名、商標、及びアーティスト名は該当所有者の権利に基づくものであり、Line 6社との関連、または提携関係は一切ありません。製品名およびアーティスト名は、本機の Line 6のサウンド・モデル開発中に研究対象となった製品の音色とサウンドを識別するためにのみ使用しています。これらの製品名、商標およびアーティスト名の使用において、いかなる協力関係もエンドースメントもありません。

目次

概要.....	1・1
特徴.....	1・1
フロントパネル・コントロール.....	1・2
リアパネル I/O.....	1・5
プリセット.....	2・1
プリセット・セレクト.....	2・1
Manualモード.....	2・1
保存.....	2・2
エディット・モード.....	3・1
スマートFXに関する注意.....	3・2
Gate.....	3・3
Boost.....	3・3
Vol.....	3・3
Loop.....	3・3
Setup.....	3・4
スマート FX.....	4・1
スマートFXカスタマイゼーション.....	4・3
Pitch Glide の裏技.....	4・4
Smart Harmonyの裏技.....	4・5
Smart Harmony スケール.....	4・8
ルーパーコントロール・モード.....	5・1
ルーパーの裏技.....	5・3
フット・コントロール.....	6・1
FBV オプション.....	6・1
アペンディクス: アンプ モデル.....	A・1

概要

Spider IV アドバンスド・ガイドへようこそ 本ガイドでは、パイロット・ハンドブックでは紹介しきれなかった Spider IVの特徴や、機能を詳しくご紹介します。

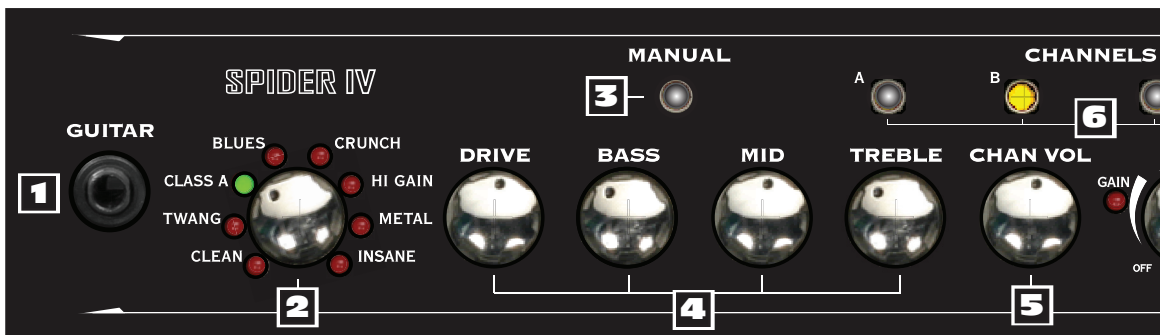
Spider IV は、Spiderファミリーが生んだ次世代に向けたギターアンプです。そこには Line 6の今日最も進んだアンプモデルが用意されています。まさにコンパクトで手頃なコンボまたはヘッドなのです。さらに次のレベルに向かうため、Line 6 がSpider IV に内蔵した幾つかの新しい特徴の概要をご紹介します。

特徴

- 伝説上名高いアンプを基に生まれた4つのミッド・ゲイン・モデルを含めた、16種類のアンプモデル
- 新しいスマートハーモニーと 28 個のプリ・プログラム設定が用意されたピッチグライドFX
- 3つのスマートFXノブで操作する 18 種類のFXモデルとカスタマイズ可能なプライマリーとセカンダリーFX
- Spider IVのフロントパネルに装備された 2種類のリバーブモデルと専用のミックス・コントロール
- スマートFXと REVERBパラメーター全てを詳細に編集可能な新しいエディットモード
- 調整可能なプリ・ブーストとポスト・ブースト、そして 2つの新しいノイズゲート・モデル (Gate+NR)
- 14秒間のループ・レコーディングとオーバーダビングが備わったQuick Loop
- アップデート可能なファームウェア — フラッシュメモリーのアップデートを可能にさせる、FBV MkIIIによる新しいMIDI パイプ
- 澄んだ音の伝達を目指して新しくデザインされた、パワーアンプとスピーカー・ケーブル
- パラメーターのフィードバックを瞬時に行う、モーメンタリー・モードが加えられた新しい LCD画面
- タイムを基にしたディレイとモジュレーションFX
- アーティストを意図し、またソングを基とした500を超えるプリセットと、64 個のユーザープリセット・ロケーション
- オプションの FBV Shortboard MkIIまたは FBV Express MkII が用意された FBVペダルコントロール
- トラック、またはお気に入りのドラムマシンとのジャムに便利なCD/MP3インプット
- モニター用またはダイレクトなレコーディング用のステレオ・ヘッドフォン/ダイレクト・アウトプット

始めに、フロントパネル・コントロールを見てみましょう。

フロントパネル・コントロール



1 GUITAR - ここにギターを接続します。

2 アンプモデル - このノブを回して 16 種類のアンプモデルから 1 つ選びます。選んだアンプモデルに最も適したトーンおよび FX コントロールが全て自動的に設定されますので、すぐに演奏が楽しめます! アンプモデルが選択されると、**LCD 画面** には、モデル名と現在設定された **DRIVE, BASS, MID, TREBLE, CHAN VOL** および **REVERB** が表示されます。

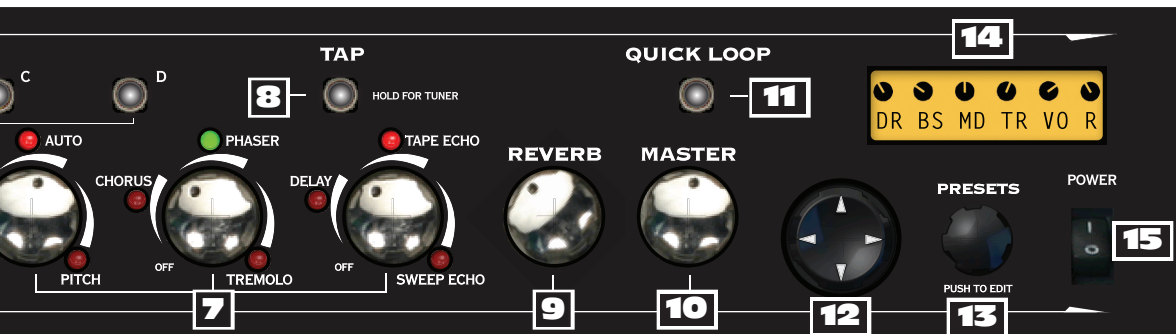
3 MANUAL - このボタンを押すと **Manual** モードに入ります。この LED が点灯すると、設定したトーンがフロントパネルのトーン・ノブ全てに確定されます。新たにアンプモデルを選び直した場合でも、トーン設定はそれ以前に設定されたノブの位置にとどまります。新しくプリセットを選択してから **Manual** モードを抜けると、そのプリセットに保存された設定が引き継がれます。

4 トーンコントロール - **DRIVE** は、従来のギターアンプのボリューム、またはゲインノブに似ています。サウンドにどれくらい「泥臭さ」や、「くすみ」を入れるかをコントロールします。**BASS, MID** と **TREBLE** コントロールは、それぞれのアンプモデルのオリジナルの音質を再現するために、最適な音色コントロールによってカスタマイズが行われます。これらのノブのうち、どれを回しても、**LCD 画面** には、現在設定されている **DRIVE, BASS, MID, TREBLE, CHAN VOL** および **REVERB** が表示されます。

5 CHAN VOL - このコントロールは、シグナル・フローの中のプリ-MASTER です。それは、Spider IV のユーザープリセット・チャンネルに保存された、複数の異なるアンプと FX セットアップのボリュームを調和させる時に役立ちます。このノブを回すと、現在設定されている **DRIVE, BASS, MID, TREBLE, CHAN VOL** と **REVERB** が、**LCD 画面** に短時間表示されます。

6 CHANNELS - 現在使っているユーザーバンクからプリセットを選択する場合は、**CHANNELS A, B, C, D** ボタンのいずれかを押します。選択したプリセット名が **LCD 画面** に表示されます。保存を実行する場合は、これらのボタンのうち 1 つを 2 秒間押しします。*詳細は第 2・2 章をご覧ください。

7 スマートFXコントロール - これらの 3 つのノブのうち 1 つを回して、選りすぐりの FX を選んでください。速くて簡単です。各 FX ノブで 3 プライマリーまたは 3 セカンダリー FX モデルの内、1 種類ずつ選択する事ができます。総数で 18 種類が用意され、最大 3 種類まで同時に作動させる事ができます。



作動しているエフェクトは、LED が赤または緑で点灯します。エフェクトの設定がカスタマイズされている場合は、その LED が琥珀色(黄色)に点灯します。*FXのカスタマイズに関する詳細は、第 4・3 章をご覧ください。FXノブをいっぱいまで回してオフにすると、エフェクトが無効になり、カスタマイズした設定をリセットする事ができます。

FX-1 ノブ: 各エフェクトに、設定のプリセット範囲で Red Comp または Fuzz Pi、Auto Wah または「Auto Swell」、[Pitch Glide] または Smart Harmonyを選択します。

FX-2 ノブ: 各エフェクトに、設定のプリセット範囲で Chorusまたは Flanger、Phaserまたは U-Vibe]、[Opto または Bias Tremを選択します。

FX-3 ノブ: 設定の範囲で Digital Delay または Analog Delay w/Mod、Tape Echo または Multi-Head、Sweep Echo または Reverseを選択します。**TAP** LED が点滅してディレイタイムを示します。

3 つの FX ノブのいずれかを回すと、**モーメンタリー FX 表示** に変わり、現在使っている FX モデル名が表示されます。 代わりのモデルを選択する場合は、モーメンタリーFX表示が行われている間に PRESETS ノブを回します。あなたの選択内容は、保存されたプリセット毎にFX データの記憶場所で保存されます。

8 TAP - タイムを基にした、モジュレーションとディレイFXのテンポを設定する場合は、TAP ボタンを求めるテンポで最低2回押します。 Tap が Edit モードの **Don't Control** に設定されてから、手でディレイタイム、またはモジュレーションスピードを設定します。それにより、別個のタップテンポとしてそのまま残ります。

HOLD TAP FOR TUNER - Tunerモードに入る場合は、TAP ボタンを2、3秒間押します。チューニングしている各音と共に、チューナーがLCD画面に表示されます。弾いた音がシャープ、またはフラットかどうか、それぞれ右方向、または左方向へのグラフィックラインで示されます。 チューンが合うと、グラフィック ** シンボルがLCDの中央に並んで表示されます。

9 REVERB - REVERB ノブを調整すると、リバーブミックス・レベルがバーグラフで2、3秒間 LCD に表示されます。Lux Spring または Vintage Plateのどちらか、現在使っているリバーブモデル名も同時に表示されます。2種類のリバーブモデルの間で切り替える場合は、バーグラフが表示されている間に PRESETSノブを左か右に回します。

10 MASTER - が、Spider IVのマスター・アウトプットレベルを調整します。このノブでヘッドフォン **および** ステレオライン出力のレベルも調整します。

11 QUICK LOOP - このボタンを押すと、Looper Control モードに入ります。これが点灯すると、録音、オーバードビング、ループ再生、停止の全てがTAP ボタン1つで、コントロールできるようになります。*録音とループ演奏に関する詳細は、第 5 章をご覧ください。

12 4-ウェイ・ナビゲーションディスク - 変更したいパラメーターを選択する場合は、**上、下、左** または **右** 矢印を押します。矢印は、機能別にLCD画面に表示されます。*多数のアンプモデルと FX パラメーターに関する詳細は、このコントロールでアクセスできます。第 3章をご覧ください。

13 PRESETS/PRESS TO EDIT - プリセット選択モードでこのノブを回すと、現在使っているバンクからユーザープリセットを選択することができます。また、多数のアーティストとソングプリセットのアイテムをスクロールさせて選ぶ事もできます。PRESETS ノブを押しこむと、Edit モードに入ります。これにより、FX全てに様々なパラメーターを設定することが可能になります。また、Setupモードの中で、設定を選択して他の機能を作動させる事もできるようになります。*詳細は第 2 章をご覧ください。

14 LCD 画面 - LCD(液晶画面)はSpider IVにパワーを吹き込む窓口です。モーメンタリー・トーン表示、モーメンタリーFX表示、そしてギターサウンドに精確なチューンを施す際に使う、その他数多くのパラメーターメニューを含め、様々なコントロールを調節する度に、この画面で様々な「ページ」を見る事になります。LCD 画面は、現在調整しているどんなパラメーターでも、瞬時にフィードバックを与えられるようにデザインされています。

15 POWER - このスイッチを入れると Spider IVに電源が入ります。電源を入れる際には、MASTER ボリュームを下げた状態で操作し、それから希望のレベルに調節する事を強くお勧めします。

リアパネル I/O



16 PHONES/DIRECT OUT - ヘッドフォンで聴く場合は、ここに接続します。このステレオジャックは、ダイレクト・アウトプットとしての役割を持っています。従って Spider IVをミキサー、PA、コンピューター DAW、録音時のインターフェイス、またはその他のライン入力器機と接続して使用することができます。録音の際には、世界でも通用する音質が得られます。ダイレクト・ギターと同等の音質が再現できます。

17 CD/MP3 - この 1/8インチ・インプットは、CDまたは MP3プレーヤー、またはその他オーディオソースのどれにでも使用することができるため、予め録音されたトラックや、好きなドラムマシンとのジャム演奏を簡単に行う事ができます。ギタープリセットのチャンネルボリュームと共に、使用する器機の出カレベルを調節する事で、ギターレベルと再生する音楽のバランスを簡単に調整する事ができます。最初に使用する器機のレベルを最低に調節してから、ギターサウンドのレベルを上げていきます。ギターからの音量が大きすぎる場合は、CHAN VOL を下げます。バランス設定が一旦終わりましたら、ギターと外部器機両方を全体のレベルとして MASTER コントロールを調節します。

18 FBV PEDAL インプット - この RJ45ジャックは、FBVフットコントローラー用の Line 6標準規格のコネクターです。これにより、Spider IVのファームウェアを FBV MkII ペダルを通じてアップデートする事が可能になります。また正しい MIDI セットアップが行われている場合は、プログラム・チェンジおよびその他の MIDI メッセージを送受信する事で、コンピューターから Spider IVを操作する事も可能になります。



19 イクステンション・スピーカーアウト - Spider IV HD150 と 150 コンボでは、ステレオ出力に 2つの8Ω スピーカーケーブルを接続する事ができます。

プリセット

Spider IV はスイッチを入れるだけで準備はオーケーです。ギタープラグを差し込んで、さあ始めてください。

ナビ・ディスク、または PRESETSノブを使ってボタンを押せば、それぞれのFX パラメーター、ルーパー、数多くのプリセット、どれにでもアクセスでき、そしてギターサウンドを究極的にカスタマイズすることができるのです。

2・1

プリセット・セレクト

初めて Spider IVに電源を入れると、プリセット・セレクトモードに入ります。PRESETSノブを回して4-ウェイ ナビゲーションディスクを使うだけで、「User」、「Artistまたは Songプリセットのどれでも選択する事ができます。A, B, C, D ボタンのどれかを押し、現在使っているバンク内のユーザープリセットを選択する事もできます。またはFBVフットコントローラーを使って16種類のユーザーバンク全体を見る事もできます。

プリセット・セレクトモードの概要は以下の通りです:

・4-ウェイ ナビ・ディスクにある左/右矢印でプリセットタイプ (User), 「Artist または Song)を選択する事ができます。

・上/下矢印を使用して、プリセットタイプの中で次の/前のフォルダーの始めから終わりまでを通して見る事ができます。



・現在使っているプリセットは、この [Coldplay Wash] に表示されます。

・PRESETSを回して、現在使っているフォルダーから、次の/前のプリセットを選択します。

Manualモード

MANUALボタンを押すと、Spider IVは Manualモードに入ります。これは保存されたセッティングとは別に、自分の作成した全てのセッティングは、DRIVE, BASS, MID, TREBLE, CHAN VOLと REVERB、それぞれのノブの物理的な位置に確定できるという意味です。Manualモードを抜ける場合は、そのボタンを再び押し、PRESETSノブで1つのプリセットを読み込む、あるいはA, B, C, D ボタンのうちどれかを押します。

保存

気に入ったプリセットを編集し終わった時は、ユーザーバンクの1つに保存する事ができます。アーティストとソング・プリセットは上書きする事ができます。そこでアーティストまたはソング・プリセットのバージョンを編集した上で保存したい場合、または最初から自分の思いどおりにプリセットを作成して保存したい場合は、ユーザーバンクの中、CHANNELS A, B, Cまたは Dにある、それぞれ1から 16まで、総数にして 64個のメモリー箇所の中の1つに保存する事ができます。

以下にSpider IVにおける保存手順の概略を説明します：

2・2

• 4-ウェイ ナヴィ・ディスクにある左/右矢印で、プリセット名 14文字の1つを選択する事ができます。(選んだ文字は点滅します。)

• 上/下矢印を使用して、次の/前のユーザーバンクを保存先に指定する事ができます。



• 現在使っているプリセットの保存先 [Bank 1 Chan A]

• PRESETSノブを回してプリセット名の文字を変更します。[急いでタイプを変更する場合は、ノブを押します。]

プリセットの保存方法：

- 現在使っているプリセットの位置にあるチャンネルボタンを押し続けます。4つのLEDが全て点滅します。
- アーティスト、またはソングプリセットから始めた場合は、CHANNELS A, B, C または D ボタンのうち1つを押します。
- ナヴィ・ディスクの上/下矢印を押して、目的先となるバンクを選択します。
- プリセットの名称変更はここで行う事ができます。- 左/右矢印で文字を選びます。- PRESETSノブで文字を変更します。
- プリセットの名称が決定した後は、CHANNELSボタンを押してプリセットの目的先を決めてください。
- LEDが通常よりも速く数回点滅して、保存手順が完了した事を知らせます。
- これでプリセットは、選んだバンクとチャンネルの指定位置に保存された事になります。

エディット・モード

標準的なトーン・コントロールに加えて、Spider IVには、全てのFXパラメーターに詳細な編集を行うことのできる、新しい エディット・モードが用意されています。「FX1」、「FX2」、「FX3」、「Reverb」、「Gate」、「Boost」、「Volume」、「Loop」とSetupに応じた有効なパラメーターであれば、どれでも編集する事ができます。

基本的に、編集の際には先ずアンプモデルを選ぶ事をお勧めします。または希望するサウンドに近い、予めプログラムされたプリセットを使って始めるのが良いでしょう。次にDRIVE、BASS、MIDとTREBLEコントロールを調整します。トーン・コントロールに触れると、全てのトーンの数値とリバーブレベルがLCDに表示されるのに気づかれるでしょう。これが「モーメンタリー・トーン表示」です。



アンプモデル・エンコーダを回すと、現在選ばれたアンプモデル名がLCDに表示されているのが見えます。これでどのモデルを選んだのかを、エンコーダを見なくても確認できるようになっています。



REVERBノブを回すと、リバーブ・ミックスレベルを表すバーグラフと共に、現在選ばれたリバーブモデル名が、LCDに2、3秒間表示されます。



プリセットにスマートFXを加える準備ができましたら、3つのスマートFXノブのうちどれか1つを押します。プリセット1つに対し、リバーブに加えて各スマートFXから1つのエフェクトを追加する事ができます。

現在選ばれているエフェクト(またはリバーブ)の代わりに、FXモデルを選択する場合は、LCDにFXモデル名が表示されている間にPRESETSノブを回します。ノブを回す度に、その名称は4秒間表示されます。ですから、もしも気が変わった時は、FXノブに再び触れて画面を起こしてください。次に、PRESETSノブを左、または右に回して代替りのモデルを選びます。

選んだ各FXを割り当てて、個々のFXパラメーターを微調整する場合は、エディットモードにアクセスします。そのためには、先ず PRESETSノブを押します。LCDは、以下のような表示になります(FX3 の場合):

• 4-ウェイ ナヴィ・ディスクにある左/右矢印で「FX1」、「FX2」、「FX3」、「Reverb」、「Gate」、「Boost」、「Vol」、「Loop」そして「Setup」を見る事ができます。

• 上/下矢印を使用して、現在選択可能なパラメーター全体を見る事ができます。[FX3 用の Mix]



• 現在使っているモデルが、ここに表示されます。[Digital Delay]

• PRESETS ノブを回して、現在選ばれているパラメーターを調整します。[Mix]

左/右矢印を使用してFXのブロック全体を見ます。上/下矢印を使用して各ブロックの中にある様々なパラメーターから選びます。パラメーターの値を調整する場合は、PRESETSノブを回します。

編集するFXの種類によっては、様々なパラメーターの調整が必要となる場合もあります。各FX モデルで特定となるその他のパラメーターのうち、「Routing」、「Mix」、「Tone」、「Feedback」、「Depth」、「Speed」、「Time」そして「Tap Control」がそれに該当しています。

スマートFXに関する注意

プリセット・セレクトモードにおいて、FX1、FX2またはFX3ノブを回してエフェクトを選択すると、既にパラメーターが設定されている事に気づきます。これらのスマートFXは、1つのエフェクトの個々のパラメーターを微調整を行わなくても、即座に音楽的なサウンドを提供することができるのです。

これにより、数々のエフェクトの視聴が簡単に、そして即座に行う事ができるのです。調整に頭を悩ませる心配は全くありません。現在選んでいるプリセットに使いたいエフェクトがある時は、エディットモードを使用して、自分の好みに合わせてカスタマイズする事ができます。

* **チャプター 4 スマート FX**章では、カスタマイズも含めて、スマートFXをさらに詳しくご紹介します。

Gate

Reverb画面で右矢印を押すと、Gate画面が表示されます。Gateモードには、Off (ゲートが無効の状態)、Gate (標準的なノイズ・ゲート)、NR (周波数によるノイズ・リダクション) または Gate+NR (両ゲート + ノイズリダクション共)から選択します。Threshold と Decayの設定も調整することができます。Gateパラメーターは個々のプリセットと共に保存されます。



◀▶ GATE
◆ Mode ● Gate+NR

Boost

新しい Boost が Spider IVに用意されています。Gateの右のエディット・モード画面の次を見てください。Boostには次のように 3つのパラメーターがあります: Preは、アンプモデルに信号が届く前に加えられるブーストの量、Postは、アンプモデルの後の、ギターオーディオに加えられるブーストの量、Activeは、選択で Onまたは Offのどちらかを選べます。Boost もまたプリセット毎に保存されます。

3・3



◀▶ BOOST
◆ Pre ● 7dB

Vol

Boost 画面で右矢印を押すと、Vol画面が表示されます。FBVにEXPペダルを加えると、専用のボリュームペダルとして使用する事ができます。Volumeのパラメーターは、Min(ヒールダウン用の最小音量)、Max(トードウン用の最大音量)、そして Routing、これはボリュームペダルのルートを、アンプモデルの前か後に設定します。Vol はプリセット毎に保存されます。



◀▶ VOLUME
◆ Max ● 100%

Loop

Vol 画面で右矢印を押すと、Loop画面が表示されます。この画面はループ・ルーティング専用です。設定はプリセット毎に保存されます。Pre は、ループ再生をアンプモデルの前にルートとして送り、Post は、それをアンプモデルの後に行います。



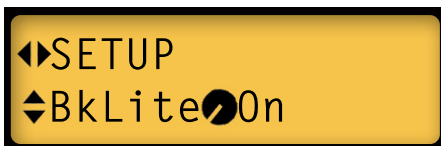
◀▶ LOOP
◆ Routng ● Post

Setup

Setup モードには 4つの画面があります: Auto FX, 「Back Light」, 「Tap Light」そして Version Number 編集を行う場合は、PRESETSノブを押して、エディット・モードに入ります。次に SETUPが表示されるまで左/右の矢印を押します。LCDに以下の表示が出るように、上/下矢印を押します:



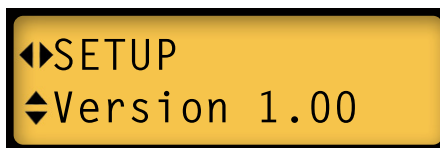
- AutoFXに、どちらかを選択します。AmpSetFXは、アンプモデルを変更すると、FXも変わります。Disabledは、アンプモデルを変更してもFXは変わりません。PRESETSノブを左か右に回して選択します。



- 下の矢印を押して BkLiteを編集を行います。選択は2つあります。On、これはLCDが常に照明されている状態です。または、15SecOff、何も操作が行われずに 15 秒間が経過すると、LCDのバックライトが消えます。PRESETSノブを左か右へ回して選択します。次に下の矢印を押すと次の画面へ進みます。



- TpLite に対して次から選択をします。Onは、TAP が常に点滅して現在選ばれているテンポを示します。Flash 8は、最後の操作が終わってから TAP の表示灯が 8 回点滅し、そして消灯します。PRESETS ノブを回して選択します。



- 4番目の Setup画面には、現在 Spider IVで動作させている、フラッシュメモリーバージョンが表示されます。この表示を編集する事はできません。

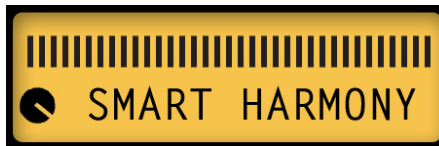
スマート FX

CHAPTER 3 エディット・モードで述べたように、FX1、FX2および FX3は、スマートなFXです。スマートFXは、パラメーターの微調整無しに、瞬時に凄いサウンドのFXを出せるようにデザインされています。勿論、いつでもエディット・モードにアクセスして、好きなようにFXを調整することができます。しかし、スマートFXの視聴をする時には、ただ 3つのFXノブの1つを回すだけというのが、最も簡単な方法です。

スマートFXノブを回すと、ノブの「スウッシュ('swoosh'日本語の『シュッ』に相当)」位置により変化する、予めプログラムされた様々なセッティングを聴くことができます。「スウッシュ」は、スマートFXノブにおける各エフェクトの開始点から終了点の間を移動範囲に当てた我々の用語です。

各スマートFXノブで、3つのプライマリー、または3つのセカンダリーFX モデルの内 1つを選択することができます。例えば、FX1ノブをオフの位置から時計方向に回してみます。最初のLEDが赤に点灯して、プライマリー Gainモデル Red Compが作動した事を示します。同時に、LCDに「スウッシュ」の位置を示す RED COMPがバーグラフと共に表示されるのがわかります。

セカンダリー・ゲインモデルを選択する場合は、LCDにRED COMPが表示されている間に PRESETS ノブを右へ回します。FUZZ PIが表示され、FX1のLED が緑に変わります。Red Compに戻る場合は、FX1ノブを少しだけ動かすと、画面を呼び起こすことができます。再び FUZZ PIがLCDに表示されるのが見えます。PRESETSノブを左に回すと、Red Compが再び読み込まれます。



上記は、「Gain」、「Auto」と「Pitch」位置のプライマリーとセカンダリー FX1 モデルです。画面左にある最小位置を示す小さいノブは、プライマリーモデルを、最大位置を示すノブはセカンダリーモデルを表しています。バーグラフは、選択したエフェクトのFX1ノブ上の現在のスウッシュ位置を表示しています。

スマート FX

以下は、FX2ノブ上にある、プライマリーとセカンダリー・スマートFXモデルのCHORUS, PHASER と TREMOLOの位置です:



4•2

ここでも画面上の小さいノブは、プライマリーモデル(最小)、またはセカンダリーモデル(最大)を表しています。バーグラフは、FX2ノブ上の選択したエフェクトの現在のスワッシュ位置を示しています。

以下は、FX3ノブ上の プライマリーとセカンダリー・スマートFXモデルのDELAY, TAPE ECHO と SWEEP ECHO のメモリー位置です:



リバーブはスマートFXグループに含まれてはいませんが、下記のイラストのように、プライマリーとセカンダリーモデルが用意されています。スマートFXの時と同様に、LCDにリバーブモデル名が表示されている間に PRESETS ノブを回してそのモデルを選択します。違いは、リバーブのバークラフがそのミックスレベルを示していて、REVERBノブを回すとそのレベル位置と合致するという点です。



スマートFXカスタマイゼーション

プリセットの中でのFXの編集に加え、**CHAPTER 3 エディット・モード**の中で紹介したように、1つのFXノブ毎に1つのエフェクトの個々のパラメーターをカスタマイズすることができます。従って、1つのプリセットの中でそのエフェクトを選ばると、そのセッティングが呼び出されるようになります。カスタマイズされたセッティングは、各プリセットと共に保存されます。スマートFXモデルがカスタマイズされると、そのLEDは、赤や緑の代わりに琥珀色(黄色)で点灯します。以下がフロントパネルの例です:

• FX1: Auto Wah
[赤= プライマリー]

• FX2: U-Vibe
[緑= セカンダリー]

• FX3: テープ・エコーまたはマルチヘッド [琥珀色(黄色) = カスタマイズ]



FX3 LED が琥珀色に点灯しているので、それがカスタマイズされていると分かります。FX3 のモデルが Tape Echo (プライマリー)なのか、または Multi-Head (セカンダリー)かどうかを判断する場合は、FX3ノブに触れて起こすか、または PRESETSボタンを押してエディット・モードに入ってください。そのモデル名が画面に表示されます。以下が FX3エディット画面における Mixパラメーターの表示例です:



スワッシュのグラフィックの代わりに、ノブのグラフィックが用いられている事に注意してください。このミックスはカスタマイズされてるからです。

以下は、スマートFXのカスタマイズの際に覚えておくべき要点です：

- スマートFXのどれか1つのセッティングをエディット・モードの中で変更した場合、そのエフェクトに対応している FXノブを回すと、その変更したセッティングが呼び出されます。(その時のLEDは琥珀色です。)
- 変更を行わないパラメーターは、そのエフェクトのために予めプログラムされたスマートFXセッティングの初期設定となります。従って、FXノブを回すと、カスタマイズしたセッティング以外の全てのセッティングは、通常どおりにそのエフェクトに応じて変更されます。
- 1つのFXノブにカスタマイズできるのは1回につき1つのエフェクトだけです。
- スマートFXにカスタマイズしたセッティングは、各プリセットと共に保存されます。
- スマートFXノブを OFFの位置まで回すと、カスタマイズした設定は失われ、そのスマートFXノブの全てのエフェクトは初期設定に戻ります。

Pitch Glide の裏技

FX1ノブをピッチの位置まで回すと、Pitch Glide エフェクトが作動します。FX1ノブの異なる全てのスマートFXセッティングを最初から最後まで、ゆっくりと回しながら聴いてみてください。 オリジナルトーンと一緒に、セカンドノートが 2オクターブ下がって聴こえるはずで、そして次には 1オクターブ下がり、それから -9, -7, -5, -4, -3, +3, +5, +7, +9(半音で)、1オクターブ上がり、そして 2オクターブ上がるという順序です。Mixは 44%に設定されています。



個々のセッティングがどうなっているのかを見る時は、FX1ノブで1つのセッティングを選択して、PRESETSノブを押すと、エディット・モードに入ります。上/下矢印を使用して、様々な Pitch Glideパラメーター全体を見る事ができます。

Pitch Glideセッティングを自分でカスタマイズしようと思った時、そのノート・ピッチは、Heel の値、Toeの値とペダル位置の組み合わせで決定されるという事を覚えておいてください。ペダルを接続しない状態で、POS の値を 0に設定すると、Heel の値は今聴こえている音に確定されます。



例えば、ヒールを +7 と POS を 0にすると、フィフスノートになり、それは7ハーフステップ上がっています。

Pitch Glideエフェクトを FBVペダルでコントロールする場合は、エディットモードに入り、Pitch Glide FBVパラメーターに目を通します。Wah= Glid または Vol= Glidの選択は、そのピッチ・グライドのコントロールに、どのペダルを使いたいかに合わせて行います。聞こえる音がHeel と Toeの値に関連して、常にあなたのペダル位置になるという事を覚えておいてください。



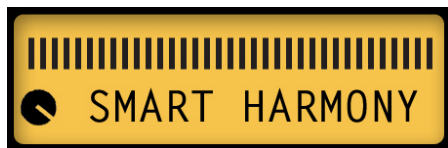
Wah= Glidの場合、ワウペダルをオフに切り替えると、通常どおりペダルでボリュームをコントロールする事ができます。STOMPスイッチをオンに切り替えると、ボリュームペダルは再び Pitch Glide に切り替わります。STOMPスイッチを使用する時は、ペダルのボリュームを最大に設定しておくことに注意しなければなりません、Pitch Glideが一旦ワウペダルに取って代わっているため、外部のエクスプレッションペダルを使う以外、ボリュームの調整を行う事はできません。



FBVパラメーターを Vol= Glidに設定すると、Pitch Glideのコントロールはペダルが行うため、そのペダルではボリュームをコントロールすることができなくなります。ワウに切り替えると、ペダルは通常どおりワウをコントロールし、ボリュームは常に 100%に保たれます。

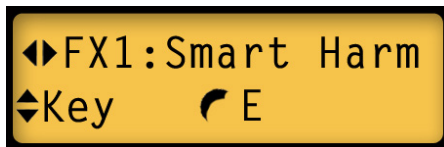
Smart Harmonyの裏技

Smart Harmonyエフェクトを使用する場合は、FX1ノブを PITCHの位置まで回して Pitch Glide を最初に選択します。LCD画面に Pitch Glide名が表示されている間に、PRESETSノブを右に回すと、Smart Harmonyが代わりに表示されます。



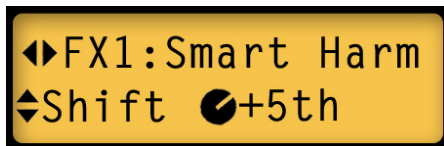
例えば、Eの開放弦で音を出しながらFX1ノブを回して、様々な Smart Harmonyセッティングを聴いてみましょう。最初は1オクターブ低く聞こえ、解放したEの1オクターブ上までの幾つかの高いハーモニーノートに続いて、低いハーモニーノートが聞こえます。

自分自身で作成した Smart Harmonyセッティングを試みたい場合は、先ずエディット・モードに入りま
す。Smart Harmonyを選択されている場合、以下の微調整を行う事ができる様々なスマート・ハー
モニ編集画面が表示されます:



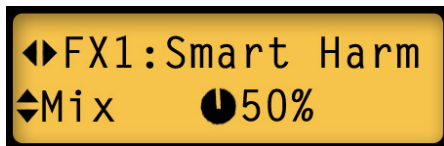
• PRESETSノブを回して
キーを選択します。

• 弾くキーに有効なスケ
ールのどれかを選択します。



• PRESETSノブを回して
ハーモニーノート・シフトを
選択します。

• Mix コントロールでドライ
とハーモニーノートの balan
スを設定します。



• Routing はプリ、ま
たはポスト・アンプモデ
リングのどちらでも選
べます。

* 上の2つの画面では、Eとメジャーの左にスワッシュグラフィックが表示されている事に注意してくださ
い。これは、Key と ScaleのセッティングがスマートFXの初期設定であり、カスタマイズされていな
い事を表しています。 Shift と Mixパラメーターの画面には、ノブのグラフィックが表示され、両方と
もカスタマイズされている事を表しています。ルーティングの「Pre」または「Post」に関しては、常
にノブのグラフィックが表示されるようになっています。

上記の Smart Harmonyセッティングを使用して、ギターでシングルノートのリフをEのキーでいくつ
か弾いてみると、ノートを弾く度にフィフスノートと一緒に聴こえるはずでず。 Mix レベルを 50%に設
定すると、2つのノートのボリュームは均等なバランスになります。試してみましょう。

今度は違うスケールで試して、Smart Harmonyがどう作動するか見てみましょう。Key] (E), 「Mix] (50%) と Routing] (Pre)のセッティングは同じ内容にしておきます。それでも、Scaleは5音音階のメジャーに、そして Shift を +3rdに設定してみましょう。

上／下矢印を使用して Scaleを表示させ、次に PntMajが表示されるまで PRESETS ノブを回します。再び上／下矢印を使用して Shiftを表示させ、次に PRESETSノブを回して+3rdに設定します。Scale と Shift画面は以下になるはずです:



では、何か演奏を始める前に、ここでどのノートを使うと、選ぶスケールが決まるのかを分かり易くするコツをご紹介します。Mixパラメーターを 100%に設定し、Shift画面まで戻ります。Shift を +None に設定し、解放で低いEノートを弾いてみると、ノーマルのサウンドが出ます。

次に PRESETSノブを右へ1回ずつクリックさせながら回します。この時にシングルEノートをクリックに合わせて弾いてみます。ノートが、+2nd], [+3rd], [+4th], [+5th], [+6th], [+7th], [+8th] そして +9thへとシフトするはずで、Eノートを弾くと、それに合わせて聴こえるノートは、E (+None)、F#、G#、B、C#、E、F#、G# そしてBになります。知っていますか？ これが5音音階メジャースケールです。

では、Scale と Shiftの値を上記のLCDに表示されている通りに戻して、9ノートを今試したように弾いてみましょう。ハーモニー・ノートがぴったり合うはずで、どのコンビネーションでもかまいません。いくつかのそのノートだけを使い、Eのキーでシングルノート・リフをいくつか即興で作ってみましょう。そのハーモニー・ノートは、リフと完璧に合うはずで、

Shift パラメーターを +4thに変更します。ここでも9ノートだけを使ってもっとリフを弾いてみてください。そのハーモニーは、完璧に合うはずで、+2nd 等、いくつかの Shiftの値はうまく調和しないかもしれませんが、多くの場合、Smart Harmonyノートのサウンドは巧いいきます。

もしもあなたが音楽理論の学位を取得しているのであれば、これらのスケールが一体何であるのか既に理解されている事でしょう。しかし、それとは異なる独学のロックンローラーだとしたら、何が起ころのか、ここでいろいろと試してみる良い機会です。

スマート・ハーモニーのスケール全てに関しては、次のページの表を参考にしてください。

Smart Harmony スケール

メジャー									
スケールのノート	A	B	C#	D	E	F#	G#	A	B
Shift 等しいノート		+2nd	+3rd	+4th	+5th	+6th	+7th	+8th	+9th
ハーモニーノート (+3rd)	C#	D#	E	F#	G#	A	B	C#	D

マイナー									
スケールのノート	A	B	C	D	E	F	G	A	B
Shift 等しいノート		+2nd	+3rd	+4th	+5th	+6th	+7th	+8th	+9th
ハーモニーノート (+3rd)	C	D	E	F	G	A	B	C	D

5音音階 メジャー									
スケールのノート	A	B	C#	E	F#	A	B	C#	E
Shift 等しいノート		+2nd	+3rd	+4th	+5th	+6th	+7th	+8th	+9th
ハーモニーノート (+3rd)	C#	E	F#	A	B	C#	E	A	B

5音音階 マイナー									
スケールのノート	A	C	D	E	G	A	C	D	E
Shift 等しいノート		+2nd	+3rd	+4th	+5th	+6th	+7th	+8th	+9th
ハーモニーノート (+3rd)	D	E	G	A	C	D	E	G	A

ハーモニック マイナー									
スケールのノート	A	B	C	D	E	F	G#	A	B
Shift 等しいノート		+2nd	+3rd	+4th	+5th	+6th	+7th	+8th	+9th
ハーモニーノート (+3rd)	C	D	E	F	G#	A	B	C	D

メロディック マイナー									
スケールのノート	A	B	C	D	E	F#	G#	A	B
Shift 等しいノート		+2nd	+3rd	+4th	+5th	+6th	+7th	+8th	+9th
ハーモニーノート (+3rd)	C	D	E	F#	G#	A	B	C	D

全音									
スケールのノート	A	B	C#	D#	F	G	A	B	C#
Shift 等しいノート		+2nd	+3rd	+4th	+5th	+6th	+7th	+8th	+9th
ハーモニーノート (+3rd)	C#	D#	F	G	A	B	C#	D#	F

ホール・ディミニッシュ									
スケールのノート	A	B	C	D	D#	F	F#	G#	A
Shift 等しいノート		+2nd	+3rd	+4th	+5th	+6th	+7th	+8th	+9th
ハーモニーノート (+3rd)	C	D	D#	F	F#	G#	A	B	C

ルーパーコントロール・モード

Spider IVのクイックループ機能により、ジャム演奏、またはプリセットの視聴のためのギターループの録音が行う事ができます。Loop Control モードに入る場合は、**QUICK LOOP** ボタンを押します。**TAP** ボタンと **QUICK LOOP** ボタンの両方が、そのまま点灯している事がわかります。ルーパーコントロール・モードでは、レコード、オーバーダブ、プレイ、ストップ、そしてデリートを含め、ルーパーの様々な機能のコントロールが、**TAP** ボタンを押すだけで行う事ができます。ループが再生を続けている間に、プリセットを編集して変更を保存する事もできます。

プリセットの視聴と編集 - ループを録音し、それを再生して視聴する、そして Spider IV プリセットを編集するという場合は、先ずギターを差し込み、プリセットを選択してから以下の手順に従ってください:

- **PRESETS** ボタンを押して、エディット・モードに入ります。ナビ・ディスクにある左の矢印を使って LOOP画面まで目を通します。PRESETSノブを回して **Routng** を **Pre** に設定します。



- 次は **Quick Loop** ボタンを押して、ルーパーコントロール・モードに入ります。そのボタンが点滅し、**TAP** ボタンは点灯のまま、LCD画面は以下のような表示になります:



- ループを録音する準備ができれば、**TAP** ボタンを押します。弾いたものは全て録音されます (最大 14秒間まで)。LCDは、以下のような表示になります:



- 録音を停止して、直ちにループを再生する場合は、再び **TAP** を押します。これによりループのアウト・ポイントが設定され、そのループがプレイモードで始めに戻ります。

ルーパーコントロール・モード

再生を停止したい場合は、再び TAP を押します。ループが気に入り、プリセットの幾つかをチェックする用意ができていれば試してみましょう。オーバーダビングについては、5・3ページで紹介します。



TAP TO STOP
HOLD+RLS TO ODUB

自分のループ再生が Prel に設定されているので、好きなプリセットを選択することができます。これでギターサウンドは、まるでライブ演奏をしているかのように変化するはずです。QUICK LOOP ボタンを押して、一時的にルーパーコントロール・モードを抜けます。CHANNELS A, B, C, D プリセットのうちどれか1つを選んで、どのようなサウンドか聴いてみましょう。バンクを変更したり、または上/下、左/右矢印を使って Artist プリセットを選ぶ事もできます。サウンドを視聴するには便利な方法です。



◀▶ ARTIST ◆ Maroon5
● Maroon 5

では、プリセットをいくつか編集してみましょう。ループを少しの間止めたい時は、QUICK LOOP ボタンを押して、ルーパーコントロール・モードに再び入ってからTAPを押してください。もう一度編集に戻る場合は、TAP を押して、ループをプレイさせ、そしてPRESETSノブを押すと **エディット・モード** に入ります。左/右矢印を使って FX3 画面に移ってから、Delay Mixの編集を行います。ディレイをオンに設定していない場合は、FX3ノブでオンを選ぶ事ができます。



◀▶ FX3: DIGITAL DL
◆ Mix ● 40%

どの FX パラメーターでも自由に選び、微調整を行う事ができます。ループが再生されている間、トーン・コントロールを変えたり、異なるアンプモデルを読み込む事さえも全てが可能です。

- ループの再生を **停止** する時は、QUICK LOOP ボタンを押してから、TAP ボタンを押します。自分で作成したループを **消す** 場合は、TAP を最低3秒間押します。
- ルーパーコントロール・モードを抜ける場合は、QUICK LOOP ボタンを再び押します。その LED が消灯し、TAP ボタンは通常の操作にもどります。

編集したセッティングを保存する場合は、2・2ページで記載されているように、CHANNELS ボタンのどれか1つを2、3秒間押し続けます。プリセット名を変更し、そのセッティングの保存先となるバンクを選んでください。つぎに希望する CHANNELS ボタンを押すと、保存の手順は完了です。

ルーパーの裏技

複数のオーバーダビングとルーパーのさらに高度なコントロールに興味のある皆さんに対し、Spider IVは決して裏切る事はありません。全ての Quick Loop機能は、TAPという1つのボタンに割り当てられてはいますが、我々は、'クイックプレス'と'プレス・アンド・ホールド'の機能性をプログラムすることにより、第2の層を TAP ボタンのコントロールに重ねました。

勿論、両手でギターを弾きながら同時にボタンを押す事など、簡単にできる事ではありません。ですからその場合は、FBVフット・コントローラーを使って、ルーパーをコントロールする事が解決策になります。例えば、下記の **T** と記されている、FBV Shortboardの TAPスイッチを使用して、Spider IVをルーパーコントロールモードの中で試す事のできるいくつかの裏技をここにご紹介します：



録音/オーバーダブ - 最初に QUICK LOOPボタン (または FUNCTION 2 **F**)を押します。ここで最初のループを録音し、正確にアウト・ポイントを設定し、直ちにオーバーダビングを開始します。

- **TAP**フットスイッチを踏みこんで、ループを録音しますが、踏んだスイッチはそのまま離さないでください。
- 最初の録音を進行させながら、ループのアウト・ポイントと最初のオーバーダブの録音を設定する準備ができれば、TAPスイッチから足を離します。
- 自作のループはその始めから再生されて、自作の元のループに重ねて録音を行う Overdub モードに入ります。
- そのまま継続させるのであれば、新しいオーバーダブを各パスに加えることができます。オーバーダビングを停止して、プレイバック・モードに入る場合は、TAP スイッチを短く押します。

これで **自作のループと一緒にジャム** ができます。再生を止める時は、再び TAPスイッチを押します。

アウト・ポイント/アーム・オーバーダブを設定する - 自分の次のギターサウンドを重ねる録音を行う前に、ループのアウト・ポイントとアーム Overdubモードを正確に設定する場合は、以下を試してください:

- **TAP**を短時間だけ踏んでから離すと、ループの録音が始まります。
- アウト・ポイントで **TAP** を踏み、そのまま保ちます。直ちにプレイバック・モードに入ります。
- オーバーダブを録音する準備ができていれば、タップスイッチを離して Overdub モードに入ってください。もしもそのままループを回し続けていくと、ループが1周りする度にもう1つのループをオーバーダブで加える事になります。

DUB: TAP TO PLAY
HOLDTAP TO STOP

- Overdub モードから抜けて、直ちにプレイバック・モードに入る時は、**TAP** スイッチを短時間踏みます。それよりも再生を止めたい場合は、**TAP** スイッチを踏んでそのまましばらくの間保ちます。

プレイバックからのアーム・オーバーダブ - 最初のループを録音し、アウト・ポイントを設定した後は、いつでも Overdub モードに入る事ができます。自作のループを再生しながら:

- **TAP** スイッチを押してそのまま保ちます。録音の準備ができていれば、**TAP** スイッチを離して Overdubモードに入ります。
- プレイバック・モードに入る場合は、**TAP** スイッチを押します。再生を止める時は、再び **TAP** を押します。

TAP TO STOP
HOLD+RLS TO ODUB

オーバーダブ・モードを抜ける/プレイバックを止める - Overdub モードに入っている時に、録音を止めたいけれど、特定のストップ・ポイントまでは再生を続けたい場合:

- これまでに記載されたいずれかの手順で、従来どおり最初のループを録音し、Overdubモードに入る。
- オーバーダブを進行させ、オーバーダビングが終了した時、**TAP** スイッチを押して、そのまま保つ。自作のループは再生されますが、録音はされません。
- 再生を止める時は、**TAP** スイッチから足を離します。自作のループは直ちに止まります。

フット・コントロール

FBV オプション

あなたがもしも FBV Shortboard またはロングボードを持っているのであれば、すべての標準的な FBV 機能で チューナー、A、B、C、D プリセットの選択、BANK UP & DOWN、MOD、DELAY、BOOST、REVERB および TAP TEMPO を含めて、Spider IV を思いどおりに操作する事ができます。ボリューム、またはフウペダルもまた Pitch Glideをコントロールするように割り当てられ、ボリュームはプリセット毎の Min と Maxの値に割り当てることができます。詳細に関しては **CHAPTER 3 エディット・モード** (3・3 P./3・4) と **CHAPTER 4 スマート FX** (4・4 P.)をご覧ください。



FBV を使用するにあたり、もう1つの重要な利点は、TAP ボタンで Quick Loop 機能をコントロールできる事です。これにより、ルーパーコントロール・モードでのレコーディング、オーバーダビング、そしてライブ・パフォーマンスの可能性が驚異的に広がります。ルーパーコントロール・モードで FBV を操作して、ループの録音と再生を行う手順に関する詳細は、**CHAPTER 5 ルーパーコントロール・モード** をご覧ください。

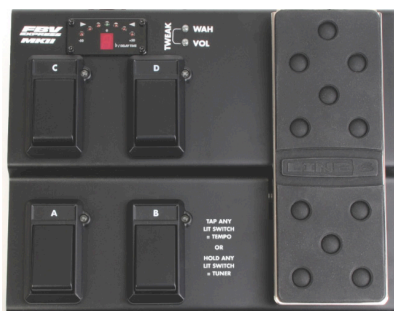


FBV Express と FBV Express MK II もまた Spider IV の多くの機能を、チューナー、プリセットの選択、タップテンポ、そしてペダルへのいくつかのFXの割り当てを含め、コントロールする事ができます。

FBV Shortboard MkII: 新しい FBV Shortboard MkII には、FUNCTION 2と呼び名の付いたスイッチも特別に追加されています。このスイッチで Quick Loop のオンとオフを切り替えます。これにより、FBVからのルーパーコントロール・モードへの出入りが簡単になります。FUNCTION 2 スイッチには、Spider IVのフロントパネルにある QUICK LOOP スイッチと同じ機能が備えられています。



以下で説明されているように、我々はさらに FBV Express MkIIIに新しいスイッチ機能を加えました。



- Tuner モードに入る時は、今現在点灯している CHANNELSスイッチを押したまま保ちます。
- A+B または C+D のどちらかの組み合わせでスイッチを押し、そのまましばらく保つとルーパーコントロール・モードに入ります。これにより、現在点灯している CHANNELS スイッチは、フロントパネルの TAP スイッチと同様に、ループをコントロールできるようになります。
- ルーパーコントロール・モードから抜ける時は、再び A+B または C+D のどちらかの組み合わせでスイッチを押します。
- 自作のループが再生されている間に、ルーパーコントロール・モードから抜ける、または CHANNELS スイッチのどれか1つを押して、プリセットを変更する、そしてルーパーコントロール・モードに再び入る事等、いつでも行う事ができます。

ファームウェア アップデート:あなたがもしも FBV MkII シリーズ・フットコントローラーをお持ちであれば、今後フラッシュメモリーの新しいバージョンがリリースされる際に、RJ45 コネクターを接続するだけで Spider IVのファームウェアをアップデートする事ができます。

Line 6ウェブサイトでファームウェアのアップデートに関する最新情報と、Spider IVをアップデートするための手順を必ず確認してください。さらに、新しい FBV MkII シリーズ・フットコントローラーの詳細が記載されている FBV MkII **アドバンスド・ガイド** をダウンロードすることもできます。

アペンディクス: アンプ モデル

以下は、Spider IVに内蔵されている 16 種類のアンプモデルに関する簡潔なリファレンス・ガイドです:

Clean 赤 - Marshall® JCM 900のクリーンチャンネルを基に、Marshallから登場した最初の真正のハイゲイン・アンプ。Clean 赤を選べば、歯切れの良い、驚異的にクリーンなトーン、暖かみのあるジャズトーン等、全て高品質なきらめきはあなたの求めるボトム・エンドを豊かにさせます。

Clean 青 - 60年代後半と 70年代前半のクリーンなトーンへの憧れから、このアンプモデルが開発されました。1973 Hiwatt® カスタム 100をモデルとし、トーンのコントロールレンジを広げ、大きく鳴り響くサウンドのためにロー・エンドを強化しました。

Twang 赤 - このアンプモデルは、60年代中期の Fender® アンプ、特にブラックフェイス '65 Twin Reverb®に関する我々の分析が最大限に活用されています。我々が求めたものは、その古典的、ガラスのようなハイエンドトーンです。特にシリアスなチキンピッキングには十分にスナップとパンチを効かせるのが有効。DRIVE ノブのトップレンジにたどり着けば、深刻な悩みも吹っ飛ばかも。

Twang 青 - 大勢のブルース、カントリーとルーツ・ロッカーズにとり、聖杯とみなされる、クラシックな Fender® ブラックフェイス Deluxe Reverb®のサウンドに匹敵するものは何も無い。

Class A 赤 - 位置について、用意…GO! このアンプモデルは Vox® AC-30 アンプリファイアーを基に開発され、さらに更新、拡張された TBX トーンコントロール・サーキットが内蔵されてます。我々は、多くのブリティッシュ・インヴェイジョンバンドの持ち味として知られている、初期のポップロック・トーンの獲得を目指しました。

Class A 青 - 古き時代の伝説とも言える音色を基にした現代的なアンプが、今日幾つか存在しています。Divided By 13 9/15 モデルのEL84 サーキットによる収穫がここにあります。

Blues 赤 - このアンプモデルは、我々がこよなく愛するあの有名なビンテージ・ツィードサウンドからインスピレーションを受けました。我々は '53 Fender® ワイドパネル Deluxe を評価し、これがその結果です。

Blues 青 - Blues青は、ロックンロールがブルースを新たなレベルへと向かわせた時代の1960 1x10 コンボ、Gretsch® 6156を基にしています。リバープとスラップエコーを少し加えて be-bop-alu-la!

Crunch 赤 - このサウンドは、幾つかの初期のメタルバンドによって使用された'68 Marshall® Plexi 50Wの研究中に製作されたものです。Crunch赤には、オリジナルのジャンパーMarshall®よりも幅広いトーン・コントロール・セッティングが用意されていて、最も高い DRIVE セッティングであっても、ミドルをバンブアップさせることができます。

* 全ての製品名は、その商標の該当所有者の権利に基づくものであり、Line 6 社との関連、または提携関係は一切ありません。これらの製品名および記述は、Line 6のサウンド・モデル開発中に研究対象となった特定の製品を識別するためにのみ使用しています。HIWATT® は、Fernandes Company, Ltdの登録商標です。FENDER®, TWIN REVERB® および DELUXE REVERB® は、Fender Musical Instruments Corporationの登録商標です。VOX® は、Vox R&D Limitedの登録商標です。MARSHALL® は、Marshall Amplification Plcの登録商標です。GRETSCHE® は、Fred W. Gretsch Enterprises, Ltd.の登録商標です。

Crunch 青 - これが、60年代のクラッチを新たなレベルへ向かわせた、ピュアなプリティッシュロック・トーンが滲み出る、2005 Orange® AD-30TC、30W、Class A ヘッドからインスピレーションを受けた我々の解釈です。

Hi Gain 赤 - プレクシが燃えてる! このアンプモデルは、'68 Marshall® Plexi 100W を基にしています。幾つかの加えられた要素があり、ヴァリアックとジャンパー・インプットチャンネルの組み合わせにより、あまり知られていなかった、あのブラウン・サウンドを作り出すことができます。インプットジャックからまるで炎が吹き出るようなあの感覚!

Hi Gain 青 - Hi Gain青は、大きく、タイトなロー・エンドを備えている、Diezel® Herbert、180Wドゥカティのハイ・パフォーマンス・ギター・アンプリファイアーからインスピレーションを受けています。

Metal 赤 - このアンプモデルのため、我々は古典的 Mesa/Boogie® Dual Rectifier® を取り入れ、さらに幾つかの機能強化を加えました。その成果とも言えるアンプモデルは、モダン・プレーヤーが明確に現れています。この、音のモンスタートラックは、ビッグ、パワフル、タイトそしてファーストなボトム・エンドを生み出します。パンチの効いた、ハイゲインのメタルサウンドを得るには、Metal赤を。

Metal 青 - このサウンドは、1つのノブで音がその範囲全体を一掃する、独特の**MID** コントロールを備えた、攻撃的な、ハイゲイン・アンプモデルを意図しています。MID ノブを最小に設定しておく、ディストーションは、ファズ・ペダルの特性を発揮します。真ん中に設定すると、クリーミーなモダン・ハイゲイン・アンプのトーンを真似します。最大にまで回すと、全力を尽くしたClass A サウンドを思い起こさせます。勿論、どこにでもその中間はあります …

Insane 赤 - このモデルはMesa/Boogie® Dual Rectifier® レッドチャンネルの我々の“ダイアルド イン フォー シュレディング”バージョンです。Metal レッドの強烈さと衝撃が合わせられています。骨まで砕かれ、脳神経にまで突き刺さるような、狂人的なグライドを生み出すミッドレンジと威力がより一層備えられています。

Insane 青 - 我々の目標とする Insane は、完全なメルドダウンを除いて、できるだけ多くのインプットゲイン・ディストーションを提供することでした。音質的な鮮明度と特性を備えながらも、尋常ではないディストーションを味わう事ができるはず。結果として、あなたは他の小さいアンプよりも、遥かに多くのボトムエンドと、キャビネットの特性を得る事ができるのです。**DRIVE** コントロールを始動させ、制覇する準備はいいか!

